ニュース済生

THE NEWS SAISEI

発行所
社会福祉法人恩賜財団済生会
東京都港区三田1－4－28 三田国際ビルヂング21F 〒108-0073
電話 03-3454-3311
FAX 03-3454-5576
編集兼発行人 炭谷 茂

https://www.saiseikai.or.jp/

新型コロナ

本会対応方針、年内に
ブロック災害訓練は延期へ

災害・安全管理対策委員会が9月28日、開かれた。

【審議事項】

①災害救援活動規則に基づく災害訓練の計画

令和2年度以降の訓練計画を審議した結果、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、本年度は大人数が集合する訓練・研修会は控え、来年度にブロック内の病院・福祉施設が合同で参加する「ブロック災害時対応訓練」を九州ブロック、中四国ブロックで、再来年度に東北・北海道ブロック、北信越ブロックで実施を計画することが決定した。

その他のブロックにおいても、来年度以降、災害対応に係る研修会を年1回実施することが決定した。

②災害対策連絡会議開催

災害時の支援体制および災害対応者間の連携の強化を目的とした「災害対策連絡会議」を新たに設置することが審議され、本年度から各ブロックで開催することが決定した。

【協議事項】

①新型コロナウイルス感染症対策における済生会の対応方針

適切な感染予防対策に基づく医療の提供により、地域住民から安全・安心の評価を得て、その結果として経営の安定化につなげることを目的とし、臨時委員2人を加えて新型コロナウイルス感染症対策における済生会の対応方針について協議を行なった。

11月に予定している次回委員会でも継続して協議し、年内での対応方針の取りまとめを目指す。

【報告事項】

①令和2年7月豪雨災害における本会施設の被災状況と救援活動（事業推進課）

「働く職員に報いたい」
コロナ情報会 各院長、悲痛な訴え

済生会の各病院が取り組んでいるコロナ対策や課題などを病院間および本部事務局で共有することを目的とした「新型コロナウイルス感染症対応に係る情報交換会」が、9月9日、11日に続きWeb会議で開催。9月24日午前に関東ブロック18人、同日午後近畿ブロック18人の病院長が参加し、院内での対策、課題を報告した。

コロナ患者の有無に関わらず、受診控え者が増加し、休棟を余儀なくされる病院もあり、経営悪化の一因となっている。それに伴い、職員には夏期賞与減という厳しい状況が生じ、病院長からは冬期には元に戻したいと対応に苦慮している、との報告が相次いだ。

インフルエンザの流行期を迎えて有熱者の受診が増えることを想定し、PCR検査の院内実施体制の拡充を検討しているものの検査機器・試薬の供給が不安定であり、検査場所や待合場所の確保が難しい病院もあることが分かった。

質疑応答では、非接触診療として、これから普及が見込まれるオンライン診療に対する不安、コロナ用に開けた病棟を閉じる方法、コロナ患者の退院の判断基準などについて意見交換が行なわれた。

済生会本部に対する要望では、再び物資がひっ迫するような状況に備えて、ある程度本部事務局にストックを置いておくこと、また情報共有の整備、経済的支援が円滑に行なわれるよう国に対する働きかけをさらに積極的に行なうことなどを求めた。

炭谷茂理事長は、「済生会は歴史的危機に瀕している。だが81の病院が連携することで乗り越えていきたい。地域医療を支えている済生会病院だからできることがある」「経営面の支援は自民党、日本維新の会に早急な対応を直接、依頼した。最前線で頑張ってくれている職員たちに報いたい。この苦境を打開して次のステップへ進みたい」などと訴え、「これからのコロナ時代ために病院業務のデジタル化、各病院職員の処遇改善をして、病院の魅力を高めるべく努めていきたい」と締めくくった。（事業推進課）

4議案を審議
施設運営委員会

施設運営委員会が9月29日、本部で開かれた。審議4件、協議1件、報告3件だった。

【審議】①資金借入（案）②施設整備計画（案）の変更③障害者支援施設の指定管理受託（埼玉県支部）④令和3年度民間助成団体の補助事業計画（案）

【協議】県央基幹病院運営者公募（新潟県支部）

【報告】①経営状況報告（病院）②経営状況報告（老健・特養）③無料低額診療実施状況報告（経営管理課）

IT投資で5点の提言
現状調査結果と併せ通知
情報化推進委員会

情報化推進委員会が10月1日、本部で開催された。

【審議事項】

1 IT投資に係る現状調査の結果を踏まえた今後の方針（案）

病院経営におけるITの投資状況を把握し、効率的な整備方法等を検討することを目的とし、「IT投資に係る現状調査」を実施した。

事務局からは、調査結果と併せて、今後のIT投資の方針について、方策として①共同購入の推進②情報共有の推進③人材育成の推進の3点、IT投資に対する留意点として①IT資金計画の注意事項②随意契約の注意事項の2点、合わせて5点の提言を全病院宛に通知する案が提示された。

委員から、調査結果は病院名を明示して通知する方が、病院間の情報共有がしやすいとの意見があり、審議の結果、調査結果に病院名を明示し、提言と併せて全病院宛に通知することで承認された。

2 財務会計システム「福祉の森」の次期更新を前提としたシステム改修（案）

前回の本委員会で、固定資産管理システムの導入について協議した結果、「福祉の森」の次期更新の検討を行ない、そのうえで導入要否を検討すべきとの意見が出された。

検討結果は、現行機能で会計監査に対応可能である点や、各ユーザーが操作に習熟している点、本会向けのパッケージシステムは存在しないこと等から「福祉の森」を継続利用する方針となった。そのうえで固定資産管理機能だけではなくワーキンググループでの改修要望事項や伝票確定・承認機能の追加等、必要機能のシステム改修を行なう案が事務局から提示され、原案通り承認された。

【報告事項】

1 マイクロソフトライセンス包括契約の更新

2 セキュリティ対策ソフトウェア共同購入の結果

3 PC共同購入の結果

【その他】

コロナ禍でのICT（情報通信技術）の活用

新型コロナウイルス感染症の影響により、さまざまな場面でICTの活用が求められており、本会の活用事例として、Web会議システム「Zoom」と患者との非接触型会話ツールが紹介された。（情報管理課）

寄贈

岩手県済生会
佐藤玲子殿　50万円（百楽苑へ）

栃木県済生会
周治美重子殿　46万円、食料品（6万円相当）（宇都宮乳児院へ）

埼玉県済生会
梶原征子殿　100万円（川口総合病院へ）

東京都済生会
若林和子殿　100万円（中央病院へ）

新潟県済生会
瀧澤正元殿　300万円（新潟病院へ）
瀧澤正元殿　100万円（康和園へ）

富山県済生会
中川清一殿　100万円（富山病院へ）

滋賀県済生会
日本中央競馬会栗東トレーニング・センター殿
汎用超音波画像診断装置・院内陽圧式人工呼吸器（781万円相当）（滋賀県病院へ）

大阪府済生会
片瀬貴文殿・伴子殿　100万円（吹田病院へ）

和歌山県済生会
長﨑靖彦殿　100万円（有田病院へ）

岡山県済生会
粕山公一殿　50万円（岡山済生会総合病院へ）
山本和秀殿　200万円（岡山済生会総合病院へ）

広島県済生会
森本忠雄殿　100万円（呉病院へ）
医療法人社団森本医院理事長　森本忠雄殿　100万円（呉病院へ）

高松宮記念基金にご協力ください

令和2年1月～9月分実績

◎本会会員加入状況
39,501人　86.0％
44,693口　8,939万円

◎外部会員加入状況
6人　32千円

◎一時寄付状況
31件　194万円
（内、自販機関係　49万円）

◎募金箱　37万円

GREEN PRINTING JFPI P-B10139
グリーン・プリンティング
この印刷製品は、環境に配慮した資材と工場で製造されています。

高松宮助成

127件4039万円

「国際協力」がコロナで大幅減

令和2年度の高松宮記念基金助成事業は、高松宮記念基金管理運営委員会での書面審議の結果、9月25日付で127件4039万4千円が承認された。

本補助は、近年予算額の5千万円を超える申請があり、同委員会で予算内に合わせた査定を行なっていたが、本年度は新型コロナウイルス感染症による事業の中止・縮小の影響もあり、申請額は127件4291万7千円と予算の範囲内にとどまった。

規約に基づき、各施設の内部加入率による査定を実施し、44件に対して減額が行なわれた。

補助の内訳は、「社会的要援護者対策事業」の診療費又は利用者負担額減免事業が28件2167万8千円、社会的要援護者対策先駆的事業2件105万9千円。「児童福祉施設等生活環境改善事業」3件191万8千円、「要介護老人対策事業」1件50万円、「国際協力事業」の姉妹病院との交流費1件10万円、「マンパワー育成・確保事業」の奨学資金及び研修資金91件1503万9千円、介護教室又はボランティア養成講座1件10万円。

今年度の申請が例年により少なかったのは、新型コロナによる入国制限の影響で、「国際協力事業」（昨年度申請は10件495万円）が減少したことが大きな要因となっている。

なお、マンパワー育成・確保事業については、看護職では認定看護師教育課程各研修が34件で、看護師特定行為研修が7件となっている。事務職は診療情報管理士の18件が主なものとなっている。

同委員会は、補助金の決定にあたり同基金への内部加入率が90％未満の場合は同比率により補助金が減額されることから全職員に積極的な加入を呼びかけている。

（高松宮記念基金対策室）

〈鳥取〉老健はまかぜの子ども食堂

令和2年度 高松宮記念基金助成事業補助金　［予算額：5,000万円］

補助対象事業名	申請金額		補助金（決定額）	
	件数	金額（単位：千円）	件数	金額（単位：千円）
1 社会的要援護者対策事業				
①診療費又は利用者負担額減免事業	28	21,678	28	21,678
②社会的要援護者対策先駆的事業	2	1,500	2	1,059
計	30	23,178	30	22,737
2 医師国外研修事業	申請なし			
3 児童福祉施設等生活環境改善事業	3	1,918	3	1,918
4 要介護老人対策事業	1	500	1	500
5 国際協力事業				
①外国人受入れ研修費	申請なし			
②姉妹病院との交流費	1	100	1	100
計	1	100	1	100
6 マンパワー育成・確保事業				
①奨学資金及び研修資金	91	17,121	91	15,039
②施設の指導者等の育成費	申請なし			
③介護教室又はボランティア養成講座	1	100	1	100
計	92	17,221	92	15,139
合計	127	42,917	127	※40,394

※　本基金への内部加入率が90％未満の場合、同比率により減額される

補助の対象となった〈山形〉はやぶさ保育園の遊具

新任看護師長研修 51人オンライン参加

新任看護師長研修が9月15～17日に本部で行なわれた。「Zoom」を活用したオンラインで開催し、41施設から51人が参加した。

1日目は加藤看護師社労士事務所・加藤明子氏が「労働法と看護管理」を講義した。基本的な労働法と育児・介護関連の法律、労働災害・通勤災害を解説。ハラスメントの概念と種類を説明し、具体的な予防策と職場の確認ポイントを解説した。

炭谷茂理事長が「看護に関する済生会原論～新型コロナによる転換期での済生会の進む方向～」を基調講演。新型コロナは、済生会の施設経営も圧迫している。未知のウイルスへの不安から、医療従事者への差別や偏見が生じている。今こそ、済生会が一体となり、徹底した対策を実施し、攻めの姿勢でこの危機を乗り切ること。「社会の最終ラインを守る」済生会を安心して利用してもらい、地域のニーズに対処することで内外に活動を発信し、済生会ブランド力の向上を図っていきたい、との内容だった。

2日目は、東京都看護協会教育部部長補佐・栗原良子氏による「人材育成」の講義が行なわれ、行動しないと、組織づくり、人づくりはできない。組織は変えられない、と熱い思いを訴えた。

常陸大宮済生会病院看護部長・鈴木典子氏は「看護部長のマネジメント～いきいきと看護管理をしよう～」を講義。看護管理者の役割は、誠実に人と向き合い、職員がやりがいをもって仕事ができるように支援することと訴えた。

3日目は、東京外国語大学・市瀬博基氏の「ポジティブ・マネジメント―自ら考え、行動し、助け合う組織をつくる―」の講義が行なわれた。

職場の学びと成長は、対話と協働から生まれ、そこから仕事の「意味」を見出すことをサポートしていくことが必要と語った。

（看護室）

唯一のブロック会議 九州はオンラインで

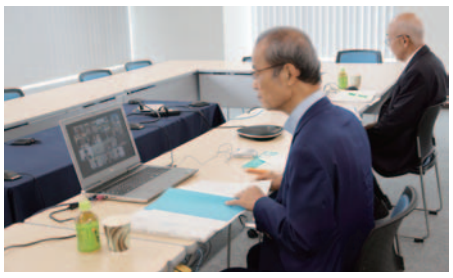
9月25日、熊本市内で開催予定だった九州ブロック会議は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、担当のみすみ病院からのオンライン（Zoom）に変更して開催。本部・支部・病院・施設から68人が出席した。今年度は他のブロック会議は開催見送りとなっている。

会議は、総会は開催せず、事務（部）長、看護部長、院長、支部長、福祉施設長、訪問看護ステーションの順で行なわれた。各部会は、例年より30分短い1時間と限られた時間だったが、新型コロナに関連した取り組みと対策、経営に関する問題などで熱い議論や意見交換が行なわれた。

初めてのオンライン開催のため、当日に備えて数回の接続テストも実施。通信状況が不安定になり音声が途切れるといったアクシデントにも見舞われたが、概ね予定どおり終了することができた。

来年は北九州市で予定。

（みすみ病院　済生記者　船橋麻紀）



人事

茨城県済生会
水戸済生会総合病院名誉院長
授与　村田　実　10・1
神栖済生会病院名誉院長
授与　高崎秀明　10・1

広島県済生会
副会長
委嘱　木下栄作　9・8
解嘱　田中　剛　8・31

宮崎県済生会
会長
委嘱　永山寛理　10・1
解嘱　鎌原宜文　7・11

11月の予定

11～13日＝アドバンスマネジメント研修Ⅳ（本部）